



駅伝ロードレース大会 12.17

前日の雨が上がり晴天に恵まれ、駅伝ロードレース大会が行われました。ただし、走るのにかなり影響するような強風の中での大会でした。

走ることが得意な生徒もいれば苦手な生徒もいます。全員が強風の中を息を吐きながら頑張っている姿に元気をもらいました。

PTA役員の皆さまには、体力向上部を中心に交通安全指導にご協力いただきましてありがとうございました。また、保護者の皆さまの応援には子どもたちも元気付けられたことと思います。ありがとうございました。



門松作り 12.19

19日(日)に細野地区まちづくり協議会主催のどんど焼き準備があり、平行して小中学校の門松づくりも行われました。

PTA事業部を中心に、正門前に立派な門松を作っていました。ありがとうございました。

門松ということで、いよいよ新年を迎えるなという感じがですね。

新年を迎えるにあたって、大谷翔平選手を育てた白井一幸氏の話を紹介します。

白井一幸氏は元北海道日本ハムファイターズヘッドコーチで、毎年最下位争いをして「日本で一番弱いチーム」と言われていた日本ハムファイターズを、2006年から11年間でAクラス入り9回、リーグ優勝5回、日本一2回に輝くチームへ変身させた名コーチです。

目標や抱負を考えるとときの参考にしてください。



大谷翔平が世界一の選手になれたわけ

日本講演新聞 2911 号

元北海道日本ハムファイターズヘッドコーチ

プロ野球解説者 白井 一幸

・・・これまで多くの選手の指導に携わる中で分かってきたのは、「大きく伸びていく人材や選手には、ある共通の特徴がある」ということです。

1つ目は、「こういう選手になりたい」「こういう目標を達成したい」という思いを強く持っていることです。2つ目は、「そうなるために自分には何が必要か」と、自ら考え、取り組んでいく姿勢があるということ。

私はよく「大谷翔平選手を育てたコーチ」と紹介されます。しかし、彼だけに何か特別な指導をしたことはありません。プロ野球に入ってくる人全員が同じ意識を持って入ってくるのではないんですね。例えば「プロ野球選手になること」を目標にしていた人もいます。そんな人は、プロ野球選手になった時点で目標がなくなってしまいます。

大谷翔平はどこがすごかったか。

彼は「1」を言うと「10」をやれるんです。「今、この人が言おうとしていることは自分に置き換えるところだ」と考えられるからです。

そして、「そのために自分はこれをやればよい」と自ら考え動けるので、彼はほかの選手よりも成長の度合いが早いんですね。

彼はプロになる前から「世界一の選手になる」と決め、「そのためには何が必要か？」を考えていました。

有名になったのが大谷翔平の目標達成シート（マンダラチャート）です。彼はそのシートの中心に「世界一の選手になる」と目標を書いていました。

その目標の周りには「160キロのボールを投げる」と書きそのためのトレーニング方法や投げるフォーム、食事について書いていました。

私が感心したのは、「世界一」の条件の一つに「運」と書いたことです。

「運」をよくするために、彼は「うそを言わない」「ごみを拾う」「あいさつをする」「感謝の気持ちを持つ」と書いていました。

ですから彼はメジャーに行った今でも、普通にごみを拾います。街なかのごみでも平気で拾うんです。

「翔平、えらいね」と言うと、彼は私に言いました。「白井さん、僕はごみじゃなく、運を拾ってるんですよ」と。

「やはりこういう選手こそが伸びていくんだ」とあらためて思いました。